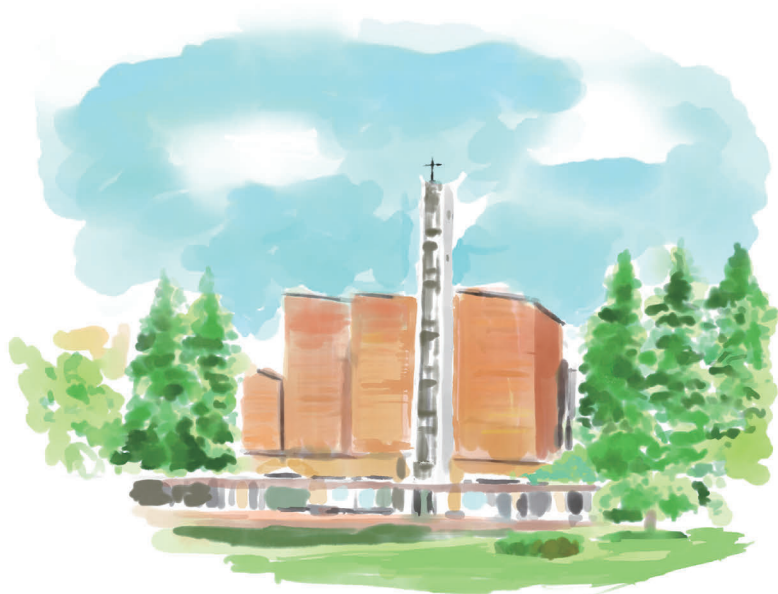


宮城学院女子大学
Partir
[パルティール]

あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



- 01 誌上セミナー
社会貢献に寄与する
人の行動変容について学ぶ
- 05 学問へのいざない
「情報技術を活用した地域貢献」を学ぶ
「スポーツ心理学」を学ぶ
- 07 特集
2022 大学祭開催
- 09 CAMPUS NEWS
- 13 My way MG way
卒業生の仕事場訪問
- 15 サークル紹介
バスケットボール部／MGウインドオーケストラ部

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支援、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

サークル紹介

Circle introduction

バスケットボール部

- 部員数：29名
- 活動日：火・木曜日
- 活動場所：中高体育館
- Instagram：@mgu_basketball

お互いを高め合うアグレッシブなチーム

普段の練習はシューティングやステップワークといった基礎的な練習からスタートし、その後、試合を意識したフォーメーション練習や紅白戦などの実戦的な活動を行っています。活動内容は固定されておらず、回ごとの課題や目的に沿った内容の練習をします。他大学との練習試合もありますが、チーム一丸となって戦い、流した汗はとても気持ちが良いです！

学年を超えた絆

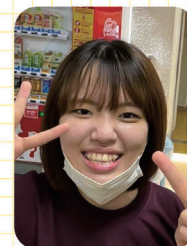
チームの魅力は、日頃から学年を越えたコミュニケーションが多く、動きの課題や改善点をメンバー同士で自然と話し合えるところです。また、コーチのご指導を受けながら一人一人が成長できる環境があります。ユニフォームやチームウェアなど、全て今年度から新調しました。色やデザインなどは自分たちで話し合い、実物を手にした時の感動は忘れられません。



大会に向けた実践練習に
取り組む様子



新しいビブス！
初めの試合！
勝利の汗！！



部長
佐藤 千咲さん
(教育学科
健康教育専攻3年)



普段の合奏の様子



合同練習会での一枚



部長
藤田 優希さん
(日本文学科3年)

MGウインドオーケストラ部

- 部員数：19名
- 活動日：月・木・土曜日
- 活動場所：学生センター3階小会議室
- Twitter：@MGWO_info
- Instagram：@mgu_wind

演奏活動ができる喜び

今年度は3年ぶりに大学祭での演奏、定期演奏会の活動ができる上に、12年ぶりに他大学との合同演奏会が行われる予定で、日々練習に取り組んでいます。3年生は何もかもが初めてですが、これらが最初で最後の活動となります。いろんな人に支えられてこの活動ができていることを心にきざみ、楽しく、感謝の気持ちを持って良い演奏会にすることが目標です。

同じ目標に向かって

学部・学科・学年問わず吹奏楽が好きな人の集団です。活動自体も曲を仕上げるのも、決して一人ではできないことなので、目指しているものが同じ仲間がいることはとても心強いです。5月の新入生歓迎会前、部員は私を入れて3人でしたが、気づけば19人まで増え、ここまで部員を増やすことができたのも仲間のおかげです。

@miyagaku_pr

@mgu.ac.jp

@miyagaku_pr

社会貢献に寄与する 人の行動変容について学ぶ 自治体と連携したゼミ活動で社会心理学の知見を広げる

自転車通行防止のため 学生が対策案を提案

森 現在、3年生の皆さんの目下の課題は、仙台市や宮城野区役所と連携した自転車通行の課題解決ですね。現在具体的に取り組んでいることを説明してください。

酒井 はい。宮城野区役所は、JR陸前原ノ町駅と隣接しており、通勤・通学の時間帯である朝と夕方の交通量がとても多い立地です。区役所前の歩道やイベント広場を自転車に乗ったまま通行している人も多く、歩行者との接触事故の恐れがある。ことか

ら、私たちは「どうしたら自転車を降りて通行してもらえるか」というテーマで対策の効果の検討を行っています。

森 本で行った仙台市自転車交通安全課と宮城野区まちづくり推進課との意見交換会ではどのような話しをしましたか。

駒井 今日の意見交換会では、私たちが実際に考えた対策案について仙台市・宮城野区の職員の皆さんと議論しました。こちらから素案として提案したのは、「押している姿勢です」というキャッチコピーと、自転車を押して歩いている人のイラストをレイアウトしたポスターや自転車を通りにくく

する障害物の設置です。それらによって、「その場で求められている行動」をイラストで分かりやすく見せ、反発心をいだかないようなポジティブなメッセージを伝えること

と自転車を降りなければならない状況を作るための障害物を用意することで、行動変容を誘発できないかと考えました。

鈴木 こうした提案に対し、職員の方々からは、まず社会的弱者への配慮についてアドバイスをいただきました。例えば障害物の設置場所は点字ブロックやベビーカーの妨げにならないよう工夫が必要です。そこま

で考えが至っていませんでしたが、確かにそのとおりだと感じました。

駒井 現場の方と話すことで気づくことはとても多いです。制作物のクリエイティブに関しても、改めて区役所や文化センターの利用者がどのような特性を持っているのか調べ、効果的な見せ方を考えなければなら

ないと思いました。
森 皆さんが社会心理学の観点から提案した対策案は、いわば研究者側の考えです。そこに現場の方々の意見を反映し、調整しながら最大限できることを見つけ出し



学芸学部 心理行動科学科
森 康浩 准教授

[学芸学部 心理行動科学科のみなさん]

駒井 璃緒さん
酒井 悠妃さん
鈴木 夢花さん



しょう。両者のバランスをとっていい方向へ向かわせる工夫も、ゼミ活動で学んではいいことのひとつです。

実践的な活動を通じて 社会的な課題を考える

森 研究室の外へ出た活動では得られるものが多かったと思いますが、まずは今日の率直な感想を聞かせてください。

駒井 とても勉強になりました。2年生までは基本的に自分が興味のあることをテーマ

にして実験や研究を行っていたので、このように社会的意義のあるテーマに取り組めることが新鮮で、面白かったです。

酒井 私もこうして外に足を運び、自分たちの目で見て研究を進められることが楽しかったです。それに、学外で行政の方と接することはとても貴重な経験でした。自治体と連携できるという点も、大学の学びでしかできないことだと思いました。

鈴木 実際に現地で検証してみると、机上で考えた通りにいかない場合もあり、難しさを感じることもありましたが、それと同じ



森 康浩 准教授



駒井 璃緒さん



酒井 悠妃さん



鈴木 夢花さん

※撮影時のみマスクを外しました。



くらいやりがいも感じました。
森 それぞれ感じることや発見があったように何よりです。当ゼミは、実際に身の回りに存在する社会問題を研究対象としています。そこでみられる行動を観察し、社会が良くなるために実現可能な解決策を議論し、実証的に対策の効果を検証する活動を行っています。皆さんは今まさに、どのような働きかけをすれば人の行動や意思決定

に影響を与えられるのか、社会的意義のあるテーマを対象に研究を進めてもらっているところなんです。皆さんが当ゼミを選んだ理由について教えてください。

鈴木 実践的に学べるところが魅力で、森ゼミを選びました。社会心理学は一番身近な心理学だと思っているので、4年生になってからの卒論のテーマの選択肢が広がると考えたことも理由です。

駒井 私は大学に入ってから2年間いろいろな講義を受けましたが、その中でも特に社会心理学に興味を持ったというのが大きな理由です。社会が人の行動に影響を与えたいという点に興味を持ち、もっと深く学んでみたいと思いました。また、森ゼミのアットホームで自由な雰囲気も自分に合っていると感じました。

酒井 私も、森先生の人柄とゼミの雰囲気が好きで選びました。実は高校まではあまり学校の先生と話すことが得意ではなかったのですが、森先生は気さくで質問もしや

の興味だけに終始しては研究の意味がありません。そこに社会的意義や、社会貢献を付加することが研究を遂行する上で重要となってきます。3年生はその部分を学ぶ段階にあり、4年生からはこれまでの学びを踏まえた卒論のテーマを設定してもらいます。

酒井 4年生の先輩方の研究テーマは多種多様ですね。自分の興味のあることにプラスして、しっかりと社会的意義のあるテーマを見つけられるか不安ですが、楽しみでもあります。

駒井 今回のような事例で、「見られている」ことで人のポジティブな状況が引き出されていくという研究をしている先輩もいます。わざと道にゴミを置いて、どれくらいの人

がそれを拾うのかという実験は興味深いですね。
森 そうですね。人の行動の背景にどのような心理的な要因があるのかどんどん知識を深めることで、卒業後もさまざまな場面で

すく、すごく学生思いの先生だなと感じています。また、自分自身が昔から周囲の人の言動に左右されやすいところがあるので、自己分析の意味も込めてこの分野を学んでみたいと思いました。

森 実践的な学びを行うために、学生にはなるべく外に出てほしいと思っていますが、ここ数年はコロナ禍の影響で思うように活動ができないこともありました。今回のような、機会を大切にし、少しでも充実した研究活動になるようにしてもらえればと思います。

社会心理学の学びを生かし 将来活躍できる人材に

森 社会心理学の対象は複数人の人がいて、お互いに影響し合っている状況です。つまり、日常のほとんどが社会心理学に繋がっています。そのため、些細な疑問や関心がこの学問の入り口になり得ますが、単なる自分

酒井 私は仙台という街が大好きなので、仙台で働く女性として活躍したいと考えています。将来はメーカーや商社への就職を希望していますが、どんな仕事であっても自分一人だけでは成し遂げることはできないので、自分から職場の雰囲気をもくし、

周りの人と協力して良い成果を出せるように、民主型のリーダーシップを発揮できる人になりたいです。また、実は今、大学祭での学科企画の実行委員長を務めているのですが、そこでも心理学の学びが生きていると感じます。

森 各々が学びを生かした将来のビジョンを描いてくれて嬉しいです。本学の学生には「吸収したい」という意欲をすごく感じます。自分の糧になることを食欲に求め、成長に繋げようとする意志の強い人が多い印象です。コミュニケーション力も高く、社会に出てからも個性を生かした活躍をしてくれることを願っています。皆さんの成長に期待しています。





「スポーツ心理学」を 学ぶ

学芸学部 心理行動科学科 千葉 陽子 助教



集団スポーツが好きで、中学・高校とバレーボールを、大学ではラクロス競技をやっていました。その中でアスリートの攻撃性に興味を持ったことが、スポーツ心理学の道へ進むきっかけとなりました。「攻撃性」と言ってもネガティブな意味ではなく、より高いパフォーマンスを発揮するエネルギーの役割を担うものです。日本では攻撃性を抑えようとする文化がありますが、私は攻撃性をパフォーマンス

アスリートの「攻撃性」を 競技発揮に変換する研究

スの推進力へと換えるためのメンタルトレーニングプログラムの開発研究を進めています。

スポーツ心理学は体育学科やスポーツ学専攻の分野に組み込まれている場合が多いのですが、本学では心理行動科学科のカリキュラムになります。基礎となる心理学をしつかりと学び、応用心理学としてスポーツ心理学の学びを広げていくことができますので、私自身も新たな気持ちでこの分野に取り組むことができます。

自分なりの答えを導き出す 過程こそが財産に

ゼミでは、スポーツ心理学に限らず学生が興味を持った心理学のテーマで研究を行っています。例えばアスリートはレジリエンス（精神的回復力）を持っている人が多いと仮定し、アスリートへのインタビュー調査を

通じてレジリエンスと関連のある「わりきり志向」を後天的に獲得するための認知的方略などを研究している学生、カフェなど人の目がある場所で勉強すると捗る「社会的促進」を、リモートワークでも同様に発揮するための仕掛けについて研究している学生などさまざまです。

卒論のテーマ選びでは、自分の興味関心が第一ですが、かつ「それが社会でどのような役に立つのか」を学生に投げかけるようにしています。もちろん私が答えを教えることは簡単ですが、試行錯誤して自分なりに答えを導き出す過程こそが、彼女たちの糧になると考えています。自分の中にストンと落ちた理論や答えは、おそらくずっと忘れることはないでしょう。学生の皆さんにはそういうものを財産にして、社会に羽ばたいて行っていきたいと思っています。

Profile

仙台市出身。2017年に筑波大学人間総合科学研究科体育科学専攻終了。埼玉大学や帝京大学、東京学芸大学、玉川大学、法政大学などで非常勤講師を務める。その後、国立スポーツ科学センター（JISS）の非常勤専門職員を経て、2021年4月から現職。○信条は「人間万事塞翁が馬」

私のおすすめ本

アスリートのメンタルは強いのか？
——スポーツ心理学の最先端から考える
編著：荒井弘和 ほか

「ポジティブシンキングは万能ではない」など、若手の研究者達が最新のスポーツ心理学の成果を踏まえ、アスリートのパフォーマンス向上のためのトピックを論じています。スポーツ関係者や教育者でなくとも、人生の中で活かせる内容だと思います。



これが学びのツボ！

心理学は、目に見えない「心」を扱う学問です。実物でとらえようのない、ある種の「不思議さ」を解き明かそうとする好奇心や、分からないものへの興味を大切に、学びを深めてほしいと思います。



「情報技術を活用した地域貢献」を 学ぶ

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 舛井 道晴 准教授

ロジカルな手法を用いて 地域貢献を目指す

学術的な専門分野としては、数理的な手法を用いて物事を分析・思考する「ゲーム理論」という分野を研究していますが、本学の講義でICTリテラシーや経営情報論などを担当し、ゼミではICTを活用した地域活性化についての考察と実践を行っています。高度な数学的知識が必要な「ゲーム理論」とは少し系統が違うと思われるかもしれませんが、共通しているのは、コンピュータを活用しながら、ロジカルに考えていくという点です。AIやデータサイエンスなどの新しい情報技術に関しては、今後ますます需要が高まっていくと見られ、今の学生にも馴染みやすい分野なのではないでしょうか。また、宮城県は地域との結びつきが強いエリアなので、研究室に

閉じこもるよりもなるべく外に出て地域の人々と関わりながら、情報技術を使って地域貢献できるような学びを提供するよう心がけています。

「将来にどう役立てるか」を意識して学んでほしい

ゼミでは、食育推進のためのアプリケーション開発（東松島市）や、SNSで地域活性化に資する情報発信（利府町）など、自治体の課題に対して、情報技術を駆使して解決を目指す取り組みを行っています。どの活動も作って終わりではなく、最終的には必ず地域住民の方々の目に触れさせ、その後の運用・分析までしっかりと行います。学生たちには、このゼミで得たスキルを将来どういうことに役立てるか、考えながら学んでほしいと伝えています。せっかく学ぶのだから、「必修科目だからやらなきゃい

けない」という心構えでは勿体ない。就職活動や仕事で生かせるスキルが身に付くよう、実りある時間を過ごしてほしいですね。

本学の学生は、ポテンシャルの高い方が多いと感じます。皆さん学ぶ意欲があり、いざ取り組み始めれば自主性を持ってどんどん進められます。ですので、皆さんが才能を開花するために重要なことは、その一歩を踏み出す「勇気」なのかもしれません。私は学びを通じて、一歩を踏み出すきっかけを提供できるようにサポートしていきたいと思っています。



Profile

千葉県出身。2011年に東京工業大学大学院社会理工学研究科社会学専攻単位取得満期退学。同年から石巻専修大学経営学部にて勤務。その後、神戸大学経済経営研究所非常勤講師などを経て、2020年4月から現職。○信条は「Cool Head but Warm Heart（頭は冷静に、されど心は熱く）」

私のおすすめ本

高校生からのゲーム理論
著：松井彰彦

難しい数式はほとんど載っておらず、絵やグラフなどを用いて分かりやすく解説してくれているので、数学が苦手な人でも面白く読めると思います。また、ゲーム理論が使える具体的な例も豊富です。ゲーム理論に興味のある人への入門書としておすすめの1冊。



これが学びのツボ！

この学問は、常に進化するテクノロジーに楽しさを見出し、絶えず自分の知識をアップデートしていくことが大切。世の中の変化に対してワクワクする気持ちを持てる人に、ぜひ学んでほしい分野です。

同時開催

オープンキャンパス

両日オープンキャンパスも開催し、「学生による学びの成果発表」を行いました。各学科の学生が日頃どのような研究活動を行っているか、高校生や保護者の方に見ていただく機会となりました。



10/15・16
SAT SUN

各サークルによるステージ発表や展示、生演奏、物品販売を行う模擬店など、キャンパス全体が多くの来場者で賑わいました。

2022

大学祭開催

宮城学院女子大学の秋の風物詩ともいえる大学祭が、10月15日（土）16日（日）の2日間、開催されました。今年のテーマは「POWER PAL GIRLS」。3年ぶりの通常開催ということもあり、実行委員会も試行錯誤を繰り返しながら準備を進めました。また、この日にかけて、準備や練習を重ねてきた学生やサークルのメンバーたちは、日頃の成果を思う存分披露しました。



実行委員長
Voice

今年の4月から対面開催に向けて準備を進めてきました。コロナ前の通常開催の様子がわからないまま手探り状態で進めてきたことや、約70名の実行委員をまとめる難しさなど苦労もありましたが、無事に開催できてとにかく楽しかった！の一言に尽きます。同時並行でオンライン企画も行い、多数の方に参加していただきました。来場された方の楽しそうな姿を見ることができて本当に良かったです。私は福島の実家から2時間かけて通学していて、大学祭直前は始発で大学に向かい終電で帰るというハードスケジュールでしたが、今は無事に大学祭をやり切った充実感でいっぱいです。来年も何らかの形で参加して学生生活最後となる大学祭を楽しみたいと思っています。

今



大学祭実行委員長
堀 杏映さん（英文文学科3年）



約70名の大所帯！実行委員のメンバー

Campus News

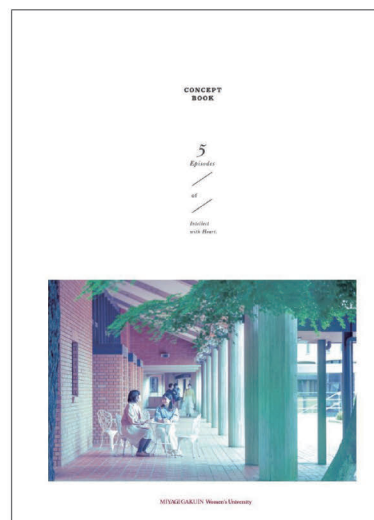
授業やサークル、学外活動など、学生たちの活躍や大学の取り組みをレポートします。

ブランドコンセプトブックが完成しました

本学では昨年「愛のある知性を。」というタグラインを策定しました。大学で様々なことを学び、その知識を糧に挑戦することを通して自分や自分が愛する人たちを幸せにする。本学が創立以来大切にしてきた教育を、端的に表現した言葉となっています。

このタグラインを策定したあと、『愛のある知性』に必要な資質とは、『愛のある知性』を感じさせる行動とは」というテーマで、教職員でワークショップを実施しました。その結果見えてきた、学内に今ある『愛のある知性』が感じられるエピソードを抽出して最終的に5つに絞り、在学生・職員に取材した内容を、タグラインとボディコピーに沿ってまとめたものがこのブランドコンセプトブックです。

なお、大学ウェブサイトではブランドコンセ



プトムービーも公開しています。ムービーやコンセプトブックの制作にあたっては、学生のエキストラの方に協力をいただきました。ぜひ併せてご覧ください。



宇宙物理学者 村山斉氏による講演会を行いました

7月2日(土)、宇宙物理学者の村山斉氏(東京大学教授)による講演会を開催しました。村山氏は末光学長と30年来のご友人で、今回の講演会が実現しました。当日は、教職員、学生、一般の方も含めて約180名の方が参加しました。

演題は「私たちはどこからきたの

か」です。村山氏は素粒子物理学・宇宙物理学の分野における世界的権威であるだけでなく、一般向けの著書等で私たちにどうして見えることのない極微の素粒子の世界や、反対に壮大すぎてとらえ難い存在である宇宙をわかりやすく説き、身近なものとする積極的な活動を展開されています。

講演では、宇宙の成り立ち、ビッグバン、ブラックホール、そしてダークマターやダークエネルギーといった宇宙論の最新成果が取り上げられましたが、巨大な望遠鏡を用いて宇宙の過去の姿が見えるといった話ではドラえもんタイムマシンの画像

が出るなど、語り口がやわらかでユーモアがあり、本来は難解であるはずの素粒子や宇宙の姿がわかりやすく伝わってきました。

最後に、村山氏は、こうした宇宙の研究が一体何の役に立つのかと言われることもあるが、人類が何千年にもわたって問い続けてきた「私たちはどこからきたのか、私たちは何者なのか」といった問題に宇宙物理学の点から一つの解答を示すことができると話されました。そして、それを可能にするものこそ「好奇心による探求」、すなわち「リベラルアーツ」であるまとめられました。聴衆の誰もが惹きつけられた知的刺激に満ちた講演であるとともに、人間の限らない可能性を感じさせてくれる希望あふれる講演でした。

現代ビジネス学科石原ゼミ・日本地域政策学会全国研究(宮城)大会にて 会長賞を受賞しました



今年度の日本地域政策学会全国研究「宮城」大会の学生ポスターセッションにおいて、現代ビジネス学科石原ゼミナールがグループ部門の「会長賞」を受賞しました。

石原ゼミナールは、復興庁「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2018でJRR東日本賞を受賞するなど、震災復興に積極的に

取り組んでいるゼミナールです。今回は、宮城県石巻市の水産加工会社と連携して取り組んできた商品開発事業をもとに「東日本大震災で被災した水産加工業における製品開発の方策に関する研究―新規販路の開拓に向けた産学連携による実証事業の結果を踏まえて―」というテーマでポスター制作に取り組み、評価を受けました。



大学後援会総会を行いました

5月28日(土)、本学キャンパスを会場に、2022年度大学後援会総会が開催され、約100名の保護者の方々に「ご参加いただきました。大学後援会総会は、年一回保護者の方々に向けて大学の取り組みを「紹介させて頂く機会として、様々な企画を用意して開催しています。」

今回は音楽科によるミニコンサートで幕を開け、オーボエ独奏、ソプラノ独唱のほか、本学オルガニスト・飯塚由美氏によるパイプオルガンの演奏が披露されました。

続いて総会が行われ、高橋博会長による開会挨拶のあと、末光学長による挨拶、2021年度事業報告および収支決算報告、2021年度会計監査報告、2022年度事業計画(案)および収支予算(案)ならびに役員の選任を審議し、すべて承認

されました。総会後は、学生部長による学生生活に関する報告、キャリア支援部長によるキャリア支援に関する報告が行われ、保護者の皆さまが配布資料に丁寧な目を通していらっしゃる様子が伺えました。

また、8月には岩手・山形・福島の3県で「地区後援会」を開催しました。遠方の保護者の皆様の疑問を解決し、相互の親睦を深めていただく機会となりました。



スポーツ栄養イベントを開催しました

9月9日(金)、本学学生・教職員を対象にスポーツサイエンスラボ主催スポーツ栄養セミナー「パフォーマンスを高める!スポーツ栄養講座」を開催しました。講師は、本学食品栄養学科OGで株式会社明治の管理栄養士・公認スポーツ

栄養士の高橋亜未さん。食品栄養学科をはじめ、各学科の学生や教職員合わせて約40名が参加しました。

講演では、トップアスリートや部活動を行っている中高校生への栄養指導についてお話いただきました。練習やトレーニングと同じくらい「食べること」にも一生懸命取り

組むことが大切であり、必要な栄養素をまんべんなく摂ることがで

きる栄養バランスのよい食事、すなわち「栄養フルコース型」の食事について具体例を示しながらご紹介いただきました。

また、基礎体力づくりにはトレーニングに加え、食事のタイミングと休養の重要性が説かれました。

さらに、将来に向けて骨粗しょう症を防ぐために、女性アスリートだけでなく骨量が増加する成長期に「骨貯金」をすることが薦められました。丈夫な骨をつくるためにも大学生生活を送る中でバランスのよい食事と運動、休養を意識することの大切さが語られました。

講演終了後には、「自身の就職活動や公認スポーツ栄養士合格までの



レオクラブが奉仕アワード賞を受賞しました

学内奉仕団体「さくらレオクラブ」が、ライオンズクラブ国際協会「思いやりは大切なこと」奉仕アワード賞を受賞しました。この賞は、世界各国のライオンズクラブで実施された約4万8千件の奉仕活動からベスト30の奉仕活動を行ったクラブを選出し、その功績を称える名誉ある賞です。

さくらレオクラブは、コロナ禍の影響で、外部との交流が断たれた宮城県立こども病院に入院している子どもたちが、オンラインで家族や外部の方々と交流できるようにとタブレット端末を寄贈することを発案しました。クラウドファンディングを立ち上げて、日本中に支援を呼びかけた結果、多額の支援が集まり、17台

ものタブレット端末を寄贈することができました。その後も、寄贈した端末を使って、読み聞かせや手遊び動画を制作して入院中の子どもたちが楽しめるコンテンツを提供したことなども評価され受賞にいたしました。

メンバーの田中友理さんは、「これからも思いやりと奉仕の精神を忘れず、様々な活動を後輩たちに受け継いでいきたい」と挨拶で述べました。



「We serve!」(ライオンズクラブの合言葉)を発するレオクラブのメンバーとライオンズクラブ国際協会332-C地区の関係者

交換留学協定校への留学を再開しました

本学は、異なる環境のもとで、他大学の学生との交流を促進し、教育の充実を図ることを目的として、国内および海外の大学と留学生交換協定を結んでいます。2020年以降、コロナ禍の影響で交換留学を控えていましたが、今年度後期から派遣留学が再開いたしました。2022年度後期



は、クイーンズランド工科大学(アメリカ)1名、ウィニベグ大学(カナダ)1名、ハワイ大学マノア校(アメリカ)2名、忠南大学(韓国)5名が協定校へ留学します。留学予定の皆さん、海外で様々なことを学び、今後の糧にしてください。

「仙台市社会福祉協議会」に
就職を志望した理由は？

社会福祉士の受験資格を得るために参加した実習先が、仙台市社会福祉協議会でした。職員が事務所で相談者を待つのではなく、どんな地域に出向き、困りごとや意見を吸い上げて支援していくという仕事にとっても魅力を感じ、就職を志望しました。

現在の仕事内容を教えてください。

私はコミュニティソーシャルワーカーとしてボランティア活動の支援を担当しています。いろいろな地域に実際に出かけ、さまざまなボランティア団体のお話を聞きながら、一緒に課題解決や地域活動がスムーズにいくようサポートをしています。例えば、「ボランティアがほしい」人と、「ボランティアに来てほしい」施設や団体とのマッチングや、団体の運営に関する相談、助成金申請のお手伝いなども

周囲と協力・連携しながら
地域の「困りごと」を
解決へ導く



就職したばかりでコロナ禍になり苦労したものの、当初から「なるべく直接顔を見て話を聞く」ことを心がけ、信頼関係を築いた。

「人と関わることが好きで、学生時代から子どもや障害者のためのボランティア活動にはよく参加していました」という四方田さん。

ボランティア団体とボランティア希望者とのマッチングのほか、最近では小学校へ出向いて福祉学習の授業を行うことも。

行っています。業務の幅は広く、専門的な知識も必要とされる仕事です。

仕事のやりがい
はどこにありますか？

コミュニティソーシャルワーカーの仕事は、成果がすぐに見えるような仕事ではありません。ですが、長く関わっていくうちにボランティア団体の方との信頼関係が構築され、誠意を持って取り組んだことが少しずつ課題解決につながっていると感じられるときはとてもやりがいを感じます。

学生時代の学びや経験で
生かされていることはありますか？

子どもが好きだったことと、特技のピアノを生かせる仕事に就きたいという思いから、幼児教育専攻に入學しました。幼児教育専攻は、保育士と幼稚園教諭の免許のほかに社会福祉士の受験資格も得ることができま

す。学生時代、子育て世代を取り巻くいろいろな課題に対してどうアプローチしていくかを学んでいたのが、現在子育て関係のボランティア団体や子ども食堂などの支援を行う中でとても役立っています。また、ソーシャルワークの授業でコミュニケーションについて学んだことは、人と関わることで多い今の仕事で生きていると感じます。

これからの目標は？

ボランティア担当になって3年目ですが、仙台市社会福祉協議会には障害者相談支援、高齢者支援、日常生活自立支援などさまざまな部署があるので、他部署の業務も幅広く経験して、キャリアを積んでいきたいと考えています。今後も各地域の専門機関や区役所、包括支援センターなどと連携しながら、地域課題の解決を目指したいです。

Profile 四方田 晴香さん

宮城県仙台市出身。宮城県多賀城高等学校卒業。2020年に宮城学院女子大学教育学部教育学科幼児教育専攻卒業。同年4月、社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会に就職。現在は太白区事務所で主事、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）として、ボランティア活動の支援を担当。

社会福祉法人
仙台市社会福祉協議会
四方田 晴香さん

※撮影時のみマスクを外しました。